

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	株式会社川本製作所新城工場 第2	階数	地上1F
建設地	愛知県新城市	構造	S造
用途地域	都市計画区域外	平均居住人員	35 人
気候区分	6地域	年間使用時間	2,086 時間/年
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年9月 予定	評価の実施日	2017年3月1日
敷地面積	27,827 m <sup>2</sup>	作成者	伊藤拓道
建築面積	2,272 m <sup>2</sup>	確認日	2017年3月1日
延床面積	2,272 m <sup>2</sup>	確認者	伊藤拓道

### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 0.9** ★★☆☆☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

標準計算

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 ②建築物の取組み ③上記+②以外の ④上記+

46 (kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.0

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

#### Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア = 2.5

**LR のスコア = 2.9**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 2.8

3 重点項目	
①地球温暖化への配慮	③敷地内の緑化
N.A	2.0
	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)
	27.5 %
	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)
	0.0 %
②資源の有効活用	④地域材の活用
2.9	1.0
	<外装材に使用した地域性のある材料>
	なし
	<建物の構造材・内装材・外構に使用した地域性のある素材>
	なし

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用  
Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化  
Q-3 1 生物環境の保全と創出

④地域材の活用  
Q-3 2 まちなみ・景観の配慮 4) 地域性のある素材による良好な景観形成

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積} - \text{建物面積} + \text{附属物面積}}$  × 100

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}}$  × 100

みんなの環境活動を応援しています

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み 係数	評価点	重み 係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>								
<b>Q1 室内環境</b>								
1 音環境								
1.1 騒音								
1.2 遮音								
1	開口部遮音性能			-	-	-	-	-
2	界壁遮音性能			-	-	-	-	-
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-	-
4	界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-	-
1.3 吸音								
2 温熱環境								
2.1 室温制御								
1	室温			-	-	-	-	-
2	外皮性能			-	-	-	-	-
3	ゾーン別制御性			-	-	-	-	-
2.2 湿度制御								
2.3 空調方式								
3 光・視環境								
3.1 昼光利用								
1	昼光率			-	-	-	-	-
2	方位別開口			-	-	-	-	-
3	昼光利用設備			-	-	-	-	-
3.2 グレア対策								
1	昼光制御			-	-	-	-	-
3.3 照度								
3.4 照明制御								
4 空気質環境								
4.1 発生源対策								
1	化学汚染物質			-	-	-	-	-
4.2 換気								
1	換気量			-	-	-	-	-
2	自然換気性能			-	-	-	-	-
3	取り入れ外気への配慮			-	-	-	-	-
4.3 運用管理								
1	CO <sub>2</sub> の監視			-	-	-	-	-
2	喫煙の制御			-	-	-	-	-
<b>Q2 サービス性能</b>								
1 機能性								
1.1 機能性・使いやすさ								
1	広さ・収納性			-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画		独自	-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性								
1	広さ感・景観			-	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-	-
3	内装計画			-	-	-	-	-
1.3 維持管理								
1	維持管理に配慮した設計			-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性								
2.1 耐震・免震								
1	耐震性			2.8	0.52	-	-	2.8
2	免震・制振性能			3.0	0.48	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数								
1	躯体材料の耐用年数			3.0	0.80	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔		②	3.0	0.20	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔			2.5	0.33	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.23	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔			2.0	0.23	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.09	-	-	-
2.4 信頼性								
1	空調・換気設備			3.0	0.19	-	-	-
2	給排水・衛生設備			1.0	0.25	-	-	-
3	電気設備		② 非常用発電設備、無停電電源設備を備えている。	3.0	0.25	-	-	-
4	機械・配管支持方法			4.0	0.25	-	-	-
5	通信・情報設備		通信手段の多様化	4.0	0.25	-	-	-
3 対応性・更新性								
3.1 空間のゆとり								
1	階高のゆとり		階高3.9m以上	3.4	0.48	-	-	3.4
2	空間の形状・自由さ			4.2	0.31	-	-	-
3.2 荷重のゆとり								
3.3 設備の更新性								
1	空調配管の更新性			5.0	0.60	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	0.40	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.31	-	-	-
4	通信配線の更新性			3.0	0.31	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.1	0.38	-	-	-
6	バックアップスペースの確保		② 維持管理が行いやすいように、天井を張らない計画にした。	3.0	0.17	-	-	-
				4.0	0.17	-	-	-
				3.0	0.11	-	-	-
				3.0	0.11	-	-	-
				3.0	0.22	-	-	-
				3.0	0.22	-	-	-

スコアシート		実施設計段階		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目			評価点	重み 係数	評価点	重み 係数			
								<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>		
1 生物環境の保全と創出	独自③			2.0	0.30					2.0
2 まちなみ・景観への配慮	独自④			3.0	0.40					3.0
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>										
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	独自④			2.5	0.30					2.5
3.2 敷地内温熱環境の向上				2.0	0.50					
				3.0	0.50					
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>										
<b>LR1 エネルギー</b>										
1 建物外皮の熱負荷抑制		BPIm=								
2 自然エネルギー利用										
3 設備システムの高効率化										
集合住宅以外の評価(3a.3b)										
集合住宅の評価(3c)										
4 効率的運用				3.0	1.00					3.0
集合住宅以外の評価				3.0	1.00					
4.1 モニタリング				3.0	0.50					
4.2 運用管理体制				3.0	0.50					
集合住宅の評価										
4.1 モニタリング										
4.2 運用管理体制										
<b>LR2 資源・マテリアル</b>										
<b>1 水資源保護</b>										
1.1 節水				3.0	0.15					3.0
1.2 雨水利用・雑排水等の利用				3.0	0.40					
1 雨水利用システム導入の有無				3.0	0.67					
2 雑排水等利用システム導入の有無				3.0	0.33					
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>										
2.1 材料使用量の削減				2.8	0.63					2.8
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.07					
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.24					
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20					
2.5 持続可能な森林から産出された木材				1.0	0.20					
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	② 独自			3.0	0.05					
	独自		躯体と仕上げ材の別が容易にできるように配慮している。	4.0	0.24					
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>										
3.1 有害物質を含まない材料の使用			F☆☆☆☆による建築材料を使用している。	5.0	0.32					3.8
3.2 フロン・ハロンの回避				3.3	0.68					
1 消火剤			不活性ガス消火剤を使用している。	4.0	0.33					
2 発泡剤(断熱材等)				3.0	0.33					
3 冷媒				3.0	0.33					
<b>LR3 敷地外環境</b>										
<b>1 地球温暖化への配慮</b>										
1 地球温暖化への配慮	①	#DIV/0!								
<b>2 地域環境への配慮</b>										
2.1 大気汚染防止			環境悪化を防止するように計画した。	3.0	0.50					3.0
2.2 温熱環境悪化の改善				5.0	0.25					
2.3 地域インフラへの負荷抑制				2.0	0.50					
1 雨水排水負荷低減	独自			3.2	0.25					
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.25					
3 交通負荷抑制	独自		適切な数の駐車場を計画した。	3.0	0.25					
4 廃棄物処理負荷抑制				4.0	0.25					
				3.0	0.25					
<b>3 周辺環境への配慮</b>										
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				2.7	0.50					2.7
1 騒音	独自			3.0	0.40					
2 振動	独自			3.0	0.33					
3 悪臭				3.0	0.33					
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制				3.0	0.40					
1 風害の抑制				3.0	0.70					
2 砂塵の抑制										
3 日照障害の抑制				3.0	0.30					
3.3 光害の抑制				1.6	0.20					
1 屋外照明及び屋内照明のつら外に漏れる光への対策				1.0	0.70					
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策				3.0	0.30					

**重点項目スコアシート**

実施設計段階

■使用評価マニュアル

CASBEE-建築(新築)2014年版+あいち版手引き

株式会社川本製作所新城工場 第二工場棟

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2014(v.2.0)\_AICHI

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>N. A</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	0.0	0.00	<b>2.9</b>
<b>② 資源の有効活用</b>				
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.16	<b>2.0</b>
Q2-3	対応性・更新性	3.4	0.14	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.8	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.12	外構緑化:27.5%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和

重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

計画上の配慮事項	
総合	注)設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 現地の自然環境を十分に考慮し、敷地内の建物配置を計画するとともに、騒音、振動などを防止し、周辺の住宅等にも配慮した。
Q1 室内環境	注)「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建築材料は☆☆☆☆を採用し、汚染物質発生防止に努めた。
Q2 サービス性能	注)「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 維持管理がしやすく、ゆとりのある空間を計画した。
Q3 室外環境(敷地内)	注)「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 現地の自然環境を十分に考慮し、植栽を計画し、緑地面積を確保した。
LR1 エネルギー	注)「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 LED照明を採用した。
LR2 資源・マテリアル	注)「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型器具(自動センサー小便器、節水便器)の採用。
LR3 敷地外環境	注)「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 敷地外道路への駐車をされないように、敷地内で適切な料の駐車スペースを確保した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。